

令和3年度 自己点検・自己評価結果 改善現状報告 (令和4年度 自己点検・自己評価 中間報告)

目次

(1)	教育理念・目標.....	1
(2)	学校運営.....	2
(3)	教育活動	
	介護福祉学科.....	3
	作業療法学科.....	5
	理学療法学科.....	7
	看護学科.....	9
	助産学科.....	11
	看護学科通信課程.....	12
	歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）.....	14
(4)	学修成果	
	介護福祉学科.....	16
	作業療法学科.....	17
	理学療法学科.....	18
	看護学科.....	19
	助産学科.....	20
	看護学科通信課程.....	21
	歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）.....	22
(5)	学生支援.....	23
(6)	教育環境.....	24
(7)	学生の受入れ募集.....	25
(8)	財務.....	26
(9)	法令等の遵守.....	27
(10)	社会貢献・地域貢献.....	28

令和3年度改善現状報告書（令和4年度中間報告）作成に際して

1. 評価担当

①教育理念・目的	校長
②学校運営	校長
③教育活動	各学科教務
④学修成果	各学科教務
⑤学生支援	学生サポートセンター
⑥教育環境	総務課
⑦学生の受入れ募集	広報部
⑧財務	経理課
⑨法令等の遵守	総務課
⑩社会貢献・地域貢献	学生サポートセンター

2. 評価数値の意味（令和3年度 自己点検・自己評価）

- 4 … 適切に対応している。
課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 … ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 … 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 … 全く対応をしておらず不適切。学校（学科）の方針から見直す必要がある。

(1) 教育理念・目標

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	学校の理念、目的、育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
2	学校における職業教育の特色は何か（理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか）	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	各学校の教育、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか	4
5	各学校の教育目標、育成人材像は、学校等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【展望等】

新型コロナウイルス感染拡大で医療・福祉人の姿、使命感、期待が改めてクローズアップされた。それに応えられる人材育成という原点に立ち返ってきめ細やかな教育を施せる環境、教育体制を法人一体となって確立していく。高校生・社会人に選ばれる専門学校、福祉・医療施設から選ばれる福祉・医療人を輩出する専門学校、地域から期待と信頼の厚い専門学校となることを目指す。



【令和4年度に行っている取組等】

- ビジョンプロジェクトにおいて、「チーム力のレベルアップ」、「教員の資質の向上」「ブランド価値の再創造」を重点にミッションとビジョンの実現に向け学校全体で取り組んでいる。
- 「多職種連携教育」の内容の充実、職員へのプログラム参加の意義と目的の理解に努め、学生の参加意識の醸成と学びの成果が高まるように工夫している。
- 高等学校、医療関係施設、市役所等を訪問し、学校へのニーズと要望、諸機関との連携の在り方、社会の趨勢等の把握を図り対応する。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

- ビジョンプロジェクトが進捗し、プロジェクトごとに活動が活発化してきている。
- それぞれの活動の成果が具体的に現れるようになることで、学校としての教育力が高まり、保護者や地域から一層認められ、期待される学校への発展を図る。

(2) 学校運営

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
5	教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7	教育活動等に関する情報公開は適切になされているか	4
8	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【展望等】

体制やシステムの整備は充実してきている中で、職員一人ひとりが所属している部署だけでなく法人全体を俯瞰して運営に参加するという機運を醸成していく。

巣立つ卒業生の姿に遣り甲斐をもつ職員に、働き甲斐ある職場環境を一層整える。

長引くコロナ禍にあっても、学生・保護者・関係施設病院・地域にきめ細やかな誠意ある対応を心がけ、本校への信頼、期待、支援に繋げる。



【令和4年度に行っている取組等】

職員が意欲をもって働き、能力を高め、働き甲斐のある職場を実現するための人事考課制度に取り組んでいる。

職員が学校内の他部署を訪問、滞在することで、他部署の働き方や仕事環境を学び、所属部署の働き方の改善に生かす「他部署 stay」という取組を始めた。

教育力の向上という目的で、教員研修を体系化し、キャリアに応じた研修、学生対応力の向上を目指す研修などを実施した。さらに授業研究を強化した。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

ビジョンプロジェクトの実施に伴い、本校のミッション及び中期ビジョンに関する様々な取組が行われ、その活性化が図られている。

授業や学生対応力の研修など、すぐにでも実践でき効果を確認できる取り組みと、具体的に効果が表れるには時間がかかる活動があるので、常に実施結果の評価を行いながら、より高い目標に到達できるように努める。

(3) 教育活動 介護福祉学科

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

カリキュラム改正に伴う「求められる介護福祉士像」において、高い倫理性の保持をはじめ、利用者の尊厳、多職種連携等、より高度な専門性や人間性が求められている。それに見合った人材を育成するために、教員自身も過去に捉われることなく、より専門性や倫理性を学ばなければならない。

【改善方策等】

教員が学ぶべき事項や目的を整理し、外部の研修情報と内部研修を照らし合わせて、計画的に受講し、知見を深めていく。



【令和4年度に行っている取組等】

校内ビジョン研修及びプロジェクトに参加し、知見を深めている。また、外部研修については、11月中に高齢者福祉実践に関する研修（リモート形式）に参加予定。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

ここ数年、学力だけでなく、メンタル面や家庭環境に課題を抱えた学生が入学している。そのため、学生の心理支援に関する研修（サブスク形式）を聴講し、学生サポートの強化を図る予定。

(3) 教育活動 作業療法学科

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	3
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

1 指定規則改正後の新カリキュラムが現1・2年生に適用されている。中でも大きな変更点である「診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）」に対応するため、「診療参加型臨床実習」「問題解決型授業（PBL）」「科目進行型授業（SBL）」の三つの柱を組み合わせた授業展開を図りつつ、学生個々の臨床基礎力を底上げすることが継続しての課題である。

2 1に対応するため、教員一人ひとりの「教育力」「臨床力」の向上とともに、「診療参加型臨床実習」「問題解決型授業（PBL）」「科目進行型授業（SBL）」についての共通理解をより深化させていくことが課題である。

【改善方策等】

課題1・2に対して

(1) (一社) 栃木県作業療法士会と連携し、「厚生労働省指定臨床実習指導者講習会」を継続開催する。

(2) (1)の継続開催を通して「診療参加型臨床実習」が求める課題をより明確にし、教員一人ひとりと臨床実習指導者、ならびに教育課程編成委員会を始めとする関連分野の関係施設等や業界団体等と

具体的に共有する。

(3) (2) で共有した課題に対して、その解決のための教育方法の工夫（「問題解決型授業（PBL）」「科目進行型授業（SBL）」等々）や教材の開発などをより体系的に進める。

(4) (3) の課題解決のためのロード・マップを作成し、定期的なミーティング（カリキュラム・ミーティング）を実施する。



【令和 4 年度に行っている取組等】

(1) (一社) 栃木県作業療法士会と連携し、「厚生労働省指定臨床実習指導者講習会」を、本年度 8/6 (土) 8/7 (日) に実施した (42 名の参加)。

(2) (1) の開催を通して「診療参加型臨床実習」が求める課題をより明確にし、教員一人ひとりと臨床実習指導者、ならびに教育課程編成委員会を始めとする関連分野の関係施設等や業界団体等と具体的に共有することができた。

(3) 臨床実習の使用書類を、指定規則改正後の新カリキュラム対応 [診療参加型臨床実習 (臨床クラークシップ)] に刷新した。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

本年度の取り組みを土台とし、教育方法の工夫（「診療参加型臨床実習 (臨床クラークシップ)」「問題解決型授業 (PBL)」「科目進行型授業 (SBL)」等々）や教材開発のための課題を明確にする。そして、明確にした課題解決のためのロード・マップの作成や役割分担をしながら実施していく。

(3) 教育活動 理学療法学科

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

現状は早急に対応が迫られる課題は特にないと考える。

しかし、教員の能力開発の機会を、基本的に社会情勢を見ながら継続的に与えられるべきであると考えている。

学内の取り組みは、社会情勢に合わせ柔軟かつ積極的に対応していく予定である。

また、教員間のコミュニケーションをより密にすることが重要と思われる。

【改善方策等】

各自の分野における活動内容の把握に務める。

定期的なミーティングの実施に務める。（学科ミーティング）



【令和4年度に行っている取組等】

定期的（1回/週）なミーティングの実施。

組織的な活動への参加を促すことで交流職種の拡大を図っている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

定期的なミーティングにより、週もしくは中期的な展望に関して情報共有できている。
将来的な業務継承を踏まえた諸活動に、集団として取り組む。

(3) 教育活動 看護学科

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

- ①教職員間の情報共有が充分でないため問題解決過程が円滑に機能しているとは言えない。
- ②コミュニケーション力と看護技術力育成について、確実な方法が未確立。

【改善方策等】

- ①問題解決過程を強化するためには、教職員一人ひとりが、情報を精査する判断能力と、有効に解決へと協働する訓練が必要である。本学科に合った着実な方法を日常の事例から教員が学び、体得できるような体制整備を行う。
- ②令和4年度施行の新カリキュラムでは、この課題を解決するための編成に留意した。



【令和4年度に行っている取組等】

- ①新任教員が4名入職したこともあり、情報共有の重要性をまずは共通認識した。情報精査は1人で行わず、先輩等数人で検討し、共通検討議題に取り上げた。朝礼時、会議時、課題発現時頻回に話し合い、ライン、サイボウズを使って課題解決に取り組んでいる。

②新カリキュラムでは心理学、人間関係論、家族論においてコミュニケーション能力を養うこととしている。しかし、科目のみで培うことは難しく、日頃の学生とのやり取り、クラス運営、学校行事等で報告・連絡・相談・確認を行い、意識的にコミュニケーションをとっている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

①新任教員の入職はあったものの昨年度より教職員メンバーが固定し、情報共有の抜けは少なくなってきた。一丸となって課題解決に向かっているが、教員個人の解釈や判断の相違があるので、都度話し合い統一した対応を取るようになっている。今後も情報を精選し、熟考していく。

②1・2年生はまだ報告・連絡・相談・確認が不十分な学生が多いため、担任や担当等で頻回に声を掛けている。また、自己主張の強い学生も多く、円滑なコミュニケーションが成り立たないことが多い。今後も忍耐強く関わり、相互関係でのコミュニケーション能力を養っていく。

(3) 教育活動 助産学科

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	3
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

短い修業年限の中で学生の状況に対応し、効果的に学ばせる方法の開発。

【改善方策等】

- ①学生の準備性の的確な把握。
- ②入学時ガイダンスで学生自身が見通しを立てて戦略的な学びができるよう説明。



【令和4年度に行っている取組等】

- ①入学後確認テストや授業後小テスト、面談等による学力・背景・志向性の把握。
- ②入学直後～軌道に乗るまでの仕掛けづくりと実施。準備段階から検討を強化。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

上記①の取り組みにより、個別支援をおこなうための学生理解は例年より早期に進んだ。動機づけと主体的な学習姿勢は継続できるようサポートし、国家試験対策にも反映させる。

(3) 教育活動 看護学科通信課程

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	2
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	2
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	3
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	2
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	2

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

- ①自宅学習である「課題集」について、考える作業ではなく転記する作業が多く、多重課題となり提出遅延の学生が目立った。また、学生からも課題の内容について意見が挙がるが多かった。
- ②教員の数が少ないため、複数の領域を担当する状況があった。時間の余裕がなく、授業評価の実施ができていない状態である。

【改善方策等】

- ①課題集においては、適宜マークシートへ変更する。提出期限も多重課題にならないようにする。ただし、マークシートになることで適当にマークをつけて提出することを防ぐため、課題の点数と教員の指導により単位認定試験の受験許可を出すなどの制限をつけることとする。
- ②教員も確保され、学生に満足な教育・支援を行う準備は整いつつある。今後は各教員が経験を積んでいくが必要になる。授業評価も実施して各教員にフィードバックする。
- 学科内での研修や研修会などへの参加を促し、学科で共有できるように伝達講習の機会を設ける必要性もある。



【令和4年度に行っている取組等】

- ①課題内容の見直しをおこなった。
- ②授業評価を行う。
教員に研修会への参加を促す。また、個人的に声をかける。
- ③多重課題を回避するため紙上事例演習の添削回数を3回から2回へ減らす。
- ④朝礼時に学年ごとに報告の徹底。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

- ①量的負担が大きかったため、国家試験を見据えて内容を見直したことで提出遅れがなくなった。
提出遅れがなくなることで再履修が減り、結果的に留年率も下がると予想される。
また、適当にマークをしてくる学生はいなかった。(全教科全員、6割取れている)
- ②人員もそろいつつある状況である。しかし、教員経験が3年以下の教員が多く、試行錯誤の最中であり整備途中である。
研修会については、資料や報告書の回覧を行うことで情報共有している。
- ③領域ごとに1.5ヶ月から2ヶ月の間隔にて課題提出の締切日を設定したため、提出遅れが減っている。
- ④毎日朝礼時に、学年ごとに報告を行い情報共有している。検討事項があるときは朝礼終了時に行っている。情報共有することで学生からの問い合わせに担任や担当が不在であっても、タイムリーに対応することができる。

(3) 教育活動 歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
2	学科の修業年限に応じた、教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
4	キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	3
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	3
7	授業評価の実施、評価体制はあるか	3
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9	成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

教育の質向上の一環として、学科内の学習会を開催し問題解決の場としたが、体制としてはまだ発展途上であり、質の向上には至っていない。

【改善方策等】

引き続き、学習会や研究授業等の機会を通して授業づくりや教員が協力して学生を育てられる体制を構築していく。また、教員が学ぶべき事項や目的を整理し、外部の研修情報と内部研修を照らし合わせて、計画的に受講し、知見を深めていく。



【令和4年度に行っている取組等】

教員が抱える問題解決のための勉強会を実施した。
研修後の教員からの伝達講習を実施。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

問題を共有する事で、お互いの理解を深める機会になった。今後はより具体的な策を教員間で検討していく。また、勉強会は定例化する事で継続的な学びに繋げる。全教員が同じレベルで指導が出来るようにしていく。

(4) 学修成果 介護福祉学科

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	2
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

学生の特性が年々多様化し、その対応方法の道筋について、再構築する必要がある。学生の置かれている課題に対して、その都度対応はしているが、過去の成功事例が通用せず、解決に至らないケースが多々ある。保護者との協力体制が築けない場合もあり、足踏み状態が続いている。

【改善方策等】

学生の特性に関する知識を教員自身が学ぶ。保護者との協力体制については、教員が結論を急ぐあまり、理解を得られていない可能性が高いので、まずは、信頼関係の構築に努める。



【令和4年度に行っている取組等】

学生の特性（発達障害、精神疾患等）についての特徴や対応方法等を学び、学科内教員間で共有している。また、何か問題があれば、その都度個人面談を行い、保護者へ現状を報告している。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

2年生退学者1名。（疾患による実習継続不可。）1年生は、退学者はいないものの、欠席日数が多い者や成績不良者がいる。今後、退学者を出さないためにも、引き続き学生の特性に関する学習と共有を行い、学生対応にあたる。保護者への対応についても、引き続きその都度報告を行う。

(4) 学修成果 作業療法学科

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

ドロップアウト・リスクの高い学生に対し、複合的な視点からのサポートを行うこと。

【改善方策等】

- (1) 学習面のサポートを重視した支援を、1・2年生の該当学生については特に重点的に行う。
- (2) 心理面のサポートについては、学生の家族をも含め行う。(可能な範囲で経済的側面へのサポートも必要に応じて対応)



【令和4年度に行っている取組等】

- (1) 学習面のサポートを重視した支援を、1・2年生の該当学生については特に重点的に行っている。
- (2) 心理面のサポートについては、学生の家族をも含め行っている。また、可能な範囲で経済的側面へのサポートも必要に応じて対応している。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

本年度前期については、休退学者は無しとの状況となっている。

(4) 学修成果 理学療法学科

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

退学率の軽減を図る

【改善方策等】

基本的な対応を継続するが、データ等を積極的に活用しより早期に問題を発見する。



【令和4年度に行っている取組等】

定期試験結果に対する分析を実施している。教示方法の相談、模索により、学習成果と学習意欲の持続について検討している。
グループ活動による集団行動の変化について研究中。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

前期試験結果をもとに、点数分布を確認して成果を確認中。問題の可能性が高い学生をピックアップした。
学内実習に際して、集団行動の変化を確認できた。互助による学習行動への転換を期待し、経過の記録と結果の分析に移行する予定。

(4) 学修成果 看護学科

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

資格取得率が全国平均に届いていない。

【改善方策等】

原因は多くの学生が学び方を確立していると言えない面があり、学校以外の学習が習慣化されていないためと考察する。

1年次から資格取得の意義、重要性を認識できるよう十分に働きかけ、空いている講義時間などを利用し、学内での学習時間を確保する。

2年次は1年の対策に加え、週に1回の夕方補講、3年次はグループ別のゼミ方式での学習時間の確保など全体的に学科内での学習時間を増やしていく。



【令和4年度に行っている取組等】

1年生は今年度、対面講義が殆どで入学時から資格取得の動機づけ、学習の必要性を教授している。空き講義時間は自己学習や定期試験対策学習にあてている。有効に活用できている学生もいるが、漫然と過ごす学生もおり、成績において格差が出ている。

2年生は空き講義時間が1年生より多かったが、学習にあてている学生は半数程度であり、有効に活用できていない。また、週に1回夕方補講を実施し、対象者は低学力者の2割としたが、参加率はそのうち5割にとどまっている。ただ、参加した学生は成績が上昇し、再試験者がいない結果となっている。

3年生は12月からゼミ方式の学習と20時までの学習時間の延長が始まる。また、週2回外部講師の国試対策を予定している。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

1・2年生とも空き講義時間を有意義に活用できるように、テストなどを取り入れていくことも一案として検討する必要がある。また、自宅学習の習慣化ができるような課題も考えていく必要がある。

定期試験対策だけの学習に終わりがちなので、学習する目的を伝授していく。

補習講義は継続していく。

(4) 学修成果 助産学科

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	2
3	退学率の低減が図られているか	2
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

- ①学ばせ方の見直しによる国家試験全員合格
- ②入学した学生すべての目標達成

【改善方策等】

- ①(3) 教育体制 改善方策参照。
- ②より早期に学生の背景を把握し、学科内外の力を結集して、目標達成を支援する。



【令和4年度に行っている取組等】

学生の個別性の理解。学力・背景・志向性の現状把握。
既習知識と実習を連結させるための発問・課題の工夫による腹落ちする学びの促進。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

実習への適応、実習目標への到達など、都度個別の課題が生じるが、学生それぞれに合わせ、助言・指導の仕方を工夫してドロップアウトしないよう留意している。

(4) 学修成果 看護学科通信課程

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	資格取得率の向上が図られているか	3
2	退学率の低減が図られているか	4
3	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
4	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

- ①資格取得に関して、通信課程の学生に合った段階的な計画をたてる
- ②卒業後の連絡方法が決められていないため情報収集が取りにくい

【改善方策等】

- ①前準備として従来の国家試験対策方法の見直し
- ②卒業する前から、連絡方法（LINE、電話、メールなど）について学生に知らせておく



【令和4年度に行っている取組等】

- ①地域ゼミの活用方法の見直し
- ②公式 LINE の導入
- ③学生（在校生、既卒生）が相談しやすい環境を整える

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

- ①19:00～20:00でナイトゼミを開講
就業している学生が参加しやすい時間帯で設定。国家試験対策や補講をおこなっている。
- ②既卒生で支援が必要な学生に対しても公式 LINE への登録をお願いしている。
- ③公式 LINE にしたことで、学生が相談しやすい環境になったため、進退問題に関することは決断の前にはまず LINE で相談してくることが以前より多くなっている。
そのため、早期に担任が関わり面談を行うことができおり、最終的に退学率の減少に繋がると考えられる。

(4) 学修成果 歯科衛生学科・歯科衛生学科（夜間部）

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

学生に対して、迅速な対応ができていない。後手に回ることが多く、満足度を上げることができなかった。

また、国家資格取得に関しても、学科全体での対策や姿勢の統一感が不足している。

【改善方策等】

段階的な目標を設定し、学年に応じた指導を細かくしていく。入学時から将来の目標を明確にし、3年後のイメージを持たせるようにする。なりたい自分へ、今どうするべきかを自分で考える力をつけていくよう学年を超えた関わり合いをし、全教員でサポートする。



【令和4年度に行っている取組等】

対応が素早くできるよう、細かくミーティングを開き、情報を共有している。学生からの意見はすぐに取り上げ、面談し解決に繋げている。

学生の個性を把握し、積極的な関わりを持つことで、国家試験対策も一丸となっていく。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

学生の「思い」は担任だけでなく全教員で共有する。情報を常に公開し今起きていることを自分の事として捉えていく。面談は指導のみならず、励ましや称賛の時もするようにしている。また、担任以外にも面談に入り、多角的に学生をサポートしていく。

(5) 学生支援

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	進路、就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
7	保護者と適切に連携しているか	4
8	卒業生への支援体制はあるか	4
9	社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10	高校、高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取組が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

本校では、学生支援の一環として近年問題になっている学生の学力低下に対する支援の強化に取り組んでいる。入学後の学習へのスムーズな移行、基礎学力不足からの休・退学の防止を目指し、その効果的な支援の方策を講じることが課題である。

【改善方策等】

学力低下に対する支援の取り組みとして、基礎学力の向上を掲げ、初年次教育をとりいれている。入学前教育として添削学習や学習セミナーを実施し、さらに入学後の基礎教育として放課後学習会や課題配信、個別学習相談等を実施し、個々に合わせた支援を展開していく。



【令和4年度に行っている取組等】

- ・学生の学力低下に対する取り組みとして、初年次教育を取り入れ強化している。入学前教育として合格直後から課題配信や外部委託による添削学習、また学習セミナーとして Zoom によるオンライン授業等を実施、入学後も必要に応じた個別指導や放課後学習会、課題配信等を実施している。
- ・社会人ニーズを踏まえた取り組みとしては、今年度より新たに授業の補講、国試対策としてナイトゼミをオンラインで実施を開始し、多くの学生が受講している（看護通信）。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

基礎学力の向上を学校全体のプロジェクトとして、職員と教務で連携して取り組んでいる。目指す成果を数値で捉え、成果検証をして、必要に応じてさらに支援を強化していく。

(6) 教育環境

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	4
4	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

長年使用している施設は、場所によって改修・補修の必要があるため、改修計画表を更新しながら、中長期的に改修・補修をしていく必要があると考えている。

【改善方策等】

作成した改修計画表を基に、緊急性やコストを鑑みながら改修・補修を進めていくとともに、今後新たに修繕・改修が必要になる箇所は見積書を取り、改修計画表へ随時追記していく。



【令和4年度に行っている取組等】

今年度は、1号館の改修工事を行っている。屋根や外壁、正面のガラスの清掃を行った。
また、順次樹木の伐採や花壇の整備を行っている。
その他、校内ネットワークインフラについても必要に応じて業者を交えながら見直しを実施している。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

伸びすぎた樹木伐採をしたことで、教室に日光が入り、室内が明るくなった。
今後は、樹木の剪定を行うとともに、花壇の手入れを行っていく予定。
ネットワークについては内部担当の職員の研修なども検討していきたい。
また、Jアラート発令時の対応マニュアルの定期見直しも予定している。

(7) 学生の受入れ募集

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4
2	学生募集活動は、適切かつ効果的に行われているか	4→2
3	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
4	学納金は妥当なものとなっているか	4
5	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4
6	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

3. コロナ渦の中で、動画コンテンツによる情報発信を募集活動に繋げる事ができなかった。SNSでは、教員紹介をブランディング委員会と連携して発信する事ができた。本校の魅力を発信し募集活動に繋げていく必要がある。

【改善方策等】

3. 動画コンテンツ充実やSNSの強化。



【令和4年度に行っている取組等】

今年度は3つの動画を配信している。

- ・オープンキャンパス来場誘致の動画（4月）
- ・作業療法学科の学生インタビュー動画（6月）
- ・多職種連携授業の紹介動画（6月）

また、ホームページにバナーリンクや学校の特色ページ（多職種連携について）を追加。

看護通信の説明会は、教員も同行し学科の説明や質疑応答など行った。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

引き続き、SNS等の強化を行い学生の様子や学校の様子など発信していく。

10月から入試が始まるので、入試後のフォローやお礼など高校訪問を行い継続した出願に結びつけたい。

(8) 財務

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

まだ年度によって学納金の増減があるので財務状況が不安定にならぬよう管理を徹底し、一定水準の収入確保をしつつ法人全体で今後の対策を検討していく。

【改善方策等】

学納金収入の安定性継続
経費削減等の継続実施及び検討



【令和4年度に行っている取組等】

維持・修繕が必要な場所には費用を投じ学習環境整備や学校のイメージアップに繋げている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

一定数の新入生確保と退学・除籍等の人数を減らし、安定した収入の中で運営をしていきたい。

(9) 法令等の遵守

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
4	自己評価結果を公開しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

国の動き、方針に沿いつつも組織の現状に即した自己評価の実施体制ならびに評価項目の検討・構築。

【改善方策等】

継続的な情報収集を行う。また、別途法人内で実施している各部門方針評価との連動を試みる。



【令和4年度に行っている取組等】

- ・学校評価や職業実践専門課程など各種制度も併せて、文科省などが実施している会議の情報を確認し、運営に関係する最新の情報を追うよう努めている。
- ・部門方針評価との組織的な連動には至っていないが、各評価担当者に声掛けを行っている。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

- ・ビジョンに基づく様々なプロジェクトが動いており、マンパワーも分散している状況にあるため、学校評価実施そのものに関する方策を組織的に行うのは現状では厳しい。
- ・自己評価並びに学校関係者評価の報告書は学校ホームページに公開している。
- ・助産学科が指定規則に則り、今年度より新カリキュラムで運営されている。また、令和5年度から社会福祉学科通信課程、看護学科通信課程が指定規則変更により新カリキュラムとなるため、各種対応事務を行っていく。

(10) 社会貢献・地域貢献

令和3年度の自己点検・自己評価結果

Q	評価項目	評価
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか	3
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
3	地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

【課題】

社会貢献・地域貢献およびボランティア活動を法人として積極的に奨励、支援しているが、コロナ禍で活動が制限されてしまった。

【改善方策等】

今後は、社会情勢をみて組織的に支援していく。また、活動実績を把握するとともに結果を学内で共有できるように体制を整えていく。



【令和4年度に行っている取組等】

- ・コロナ禍の長期化により、学生ボランティアの依頼は皆無であったが、法人として積極的に奨励し、外部にも働きかけを行っている。
- ・継続してシルバー大学校や市町村等への講師を派遣するとともに、学校の設備などを地域に貸与するなどの人的・物的資源の面で積極的に地域貢献している。また、本校発信の「地域住民への健康教育」としての公開講座の実施に向けたプロジェクトを立ち上げ取り組んでいる。

【今年度の状況、今後の活動の展望等】

学生のボランティアとしては、学科主導で地域清掃活動、交通安全街頭指導等に取り組んでいる。また、教員も学生の職業教育の見本となるべく職種を活かしたボランティアに携わり、活動の様子をSNSなどを活用して地域に発信している。